

北九州市立母子・父子福祉センター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 13:00~16:30
- 2 場所 小倉北区役所西棟7階 特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 阿南構成員、河崎構成員、大塚構成員、
田中構成員、田村構成員、小林構成員
(事務局) 子ども家庭局子育て支援課長、家庭支援係長

4 会議内容

- 構成員の互選により、座長を選出
- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体より、提案概要についてのプレゼンテーション及び質疑応答を実施

【以下、質疑応答内容】

- (構成員) 資料に母子家庭の困ったときの相談相手の記載があるが、相談相手として保育園の保育士がよく選ばれる。保育園との連携などは考えていないか。
- (応募団体) 市の施設や関連施設が多くあるので、保育園や幼稚園と連携していく必要があると考える。検討させていただく。
- (構成員) 保育園利用の方で、離婚などの差し迫った相談もあり、保育園がセンターのことを知っているのと連携しやすいので、お願いしたい。
- (構成員) 離婚前の相談事業もあるということで、離婚が決定した場合は、夫婦で公正証書を作成することが多いと思うが、弁護士等を含めて、公正証書の作成までお手伝いするということはあるのか。
- (応募団体) 具体的にどのような手続きで、どこに相談すればいいかというアドバイスは行う。内容については、センターの職員が関われないことになるので、当事者同士となる。
- (構成員) その場合は弁護士と相談する形になるのか。
- (応募団体) 必要に応じて、弁護士相談を案内している。指導員には家庭裁判所の調停などの経験のある職員があり、そのあたりはよく理解していて、対応はできていると思っている。

(構成員) 人員配置計画表によると、7名配置されているようだが、実際利用される人数に対して足りているのか。急を要して相談して来られる方もいると思うので、人が足りていないと感じることがあれば、増員の計画はあるか教えてほしい。

(応募団体) 具体的な相談に対応できる職員は指導員が1名である。センターの開館時間は長く、9時半から夜8時半まで開いている。今はその時間すべて対応するとしているが、1人では到底できない部分がある。もう1人ほしいというところだが、現状としては、相談時間が重なることや、電話が次々にかかってくることはなく、調整しながら、1人で対応できているというところである。
将来的にはもう1人相談員がほしいという希望はあるが、予算もあるので、今後の検討課題と考える。

(構成員) 講座の説明があったが、相談をされている建物と同じ建物内で講座も行っているのか。

(応募団体) センターの中に、0A 研修室と研修室があり、その2つを利用して実施している。同じ場所に和室があり、そこで託児を行い、親子隣同士で預かっている。

(構成員) センターの名称変更について、新規で提案されているので、ぜひ時代に合った名称になるようすすめていただきたい。

(応募団体) ありがとうございます。

(構成員) 就職率が66.3%ということだが、この要因と就職率を高める手立ては検討しているか。

(応募団体) プログラム策定員が3名いる。AIMに1人、センターに2人。具体的に就職や収入アップの相談を受ける際、プログラムを策定している。今後子どもが大きくなる段階でどれぐらいの収入が必要かということをお互いに確認しながら策定する。今の生活に合った仕事はどのような仕事か、どのような働き方ができるか等、細かい相談を受けながら就職につなげ、すでに就職している人は収入アップにつなげていく。これから何年後は小学生から中学生になる、中学生から高校生になるので、その頃にはもう少しレベルアップするために、今のうちに資格を取るようになるなど、具体的なアドバイス・相談を実施しているのが現状。それを引き続きやっていきたいと考える。

(構成員) ひとり親家庭だと、経済面のサポートがとても大切になると思うので、良い取組みだと思う。

- 検討員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入
その後、検討員全員で意見交換

【以下、意見内容】

- (構成員) ひとり親が子育てをしていく中で、子どもの年齢が小学校、中学校と上がっていく際に必要なことや金銭面での相談を各人に行い、将来のビジョンを描けるようにしていることは、今のひとり親には一番必要なことではないかと感銘を受けた。
- (構成員) リフレッシュ講座によく取り組まれているが、ひとりの人間として、ひとり親自身のレスパイトをしっかりと保障していく必要があると感じた。
- (構成員) ひとり親の方は、親の介護の事情も発生するかもしれないので、子どもとひとり親以外の問題が発生した場合も、寄り添ってもらえる仕組みがあるといいと思った。
- (構成員) 防災面について、センターが属するウェルとばたにマニュアルがあると思うが、講座中に火災が発生した場合など、避難誘導をどうするか等も記載があれば、安心して相談できると思った。
- (構成員) ウェルとばたの建物全体の危機管理の記載はあるようだ。
- (構成員) ウェルとばたは全体の管理になる。マニュアルがないと職員がどう誘導するか分からないので、ウェルとばたのマニュアルにプラスしてセンター独自のマニュアルが必要だと思う。
- (構成員) こちらの事業者は、過去にも指定管理をしているということで、実績は十分あると感じた。

- 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定
- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について確認

【以下、総合的な所見内容】

- ・全体的にしっかり取り組みが行われており、経験も十分である。
- ・応募団体が長年培ってきた知識・技術により提供される質の高いサービスがある。
- ・社会背景や生活の変化に即した形での対応が見られる。
- ・子どもが成長していくために必要なことや金銭面でのアドバイスをきめ細かく行っていくことに感銘を受けた。
- ・相談者一人ひとりにしっかり向き合っている姿勢を感じた。
- ・託児可能であることもとても便利だと感じた。
- ・新規の取り組みも検討されていることは評価できる。
- ・スマートフォンサイトの作成など時代に合った提案がなされている。
- ・就職率向上の取り組みにも力を入れてほしい。

- ・周知に向けた取組みにも期待したい。
- ・ひとり親の介護に関しても、業務内容に少し組み込んでほしい。
- ・名称変更はぜひ行っていただきたい。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。